

令和5年度 岐阜県立国際たくみアカデミー活性化検討会

議事要旨

1 開催日時及び場所

令和6年2月19日（火）14時00分～15時30分
国際たくみアカデミー短大校 会議室

2 出席委員

香川英隆座長、金森薫委員、渡辺善典委員、石黒時紀委員、荒川晶一委員、梅本満郎委員、尾崎正俊委員、藤原竹志委員代理、山田夕紀委員、西村康志委員

3 事務局

商工労働部次長、労働雇用課職業能力開発係、国際たくみアカデミー校長

4 会議の概要

あいさつ、資料説明、意見交換

5 主な意見等

○国際たくみアカデミーの現状、令和4年度活性化検討会意見後等について

- ・ 建築業界では、BIM化が進んでいる。また、DX化の対応も必要である。
- ・ 品質管理手法の基本を授業で対応していただきたい。卒業後、専門知識を磨いて企業で活かしていただきたい。

○国際たくみアカデミーの課題について

1. 指導員の育成及び指導員の定員の確保について

- ・ 企業と学校の相互交流をして、企業からも学校へ教えるとか、学校から企業へのやり取りの関係を築くこと。実際の企業を見ることは、指導員の方にとって重要である。関連メーカーも活用してはどうか。
- ・ 国際たくみアカデミーの訓練生が指導員免許を取れるようにして欲しい。学校在籍中に習得できないか。

2. 就職支援相談員の確保について

貴校で配置の御検討をしていただきたい。

- ・ 特殊性ある学校のため、就職支援相談員を配置していただきたい。
- ・ 外国籍の方は特に、正規社員で働けるように専門の方と一緒に指導をすること。
- ・ 就職支援の窓口が増えることでメリットがあると思う。
- ・ 訓練生と、関係性を築きながら、地域にとってメリットがある安定就職を目指していく点から、就職支援相談員の配置は必要である。

3. ドイツ職業学校との連携による次世代住宅の施工技術者育成について

世の中の変化もあり、高气密高断熱住宅以外の部分に取り組んでいく必要がある。

- ・日本独自の風土にあった取組が必要である。
- ・連携を見送りしても、国内にも高気密高断熱住宅に熱心な方がいるので、その情報を取入れて、新たな次世代住宅技術を指導した方がよい。
- ・新たにドイツの技術を日本に取入れても、日本版にすることが大変である。学校では、基本的な知識を身に付けていただきたい。

○ものづくり人材の確保について

工業高校でも、ものづくりや工業に興味を持って入学してくる生徒が、非常に少なくなってきたのが現状。ホームページ、パンフレット、インスタグラムも活用して学生・生徒の募集をすることが必要である。